

中国華東地域における都市と農村の景観

村田啓介*・劉 伯雯・亀井啓一郎・金本理佳・周 海虹・
瀬戸嶋幸一・田中智司・中牧 崇・横山俊一**

I はじめに

本稿は、中国華東地域における都市と農村の景観について考察することを目的としている。調査は1994年11月11日から18日にかけて上海 Shanghai 市、杭州 Hangzhou 市、紹興 Shaoxing 市などで観察や聞き取りを行っている。また、1989年に実施された正井らの調査報告¹⁾をはじめ、各種の文献・資料も参考として、本稿をまとめている。

上海市は中国に三市ある直轄市の一つである。同市は長江デルタの沖積平野の一部を占め、平均海拔高度は4m前後である。1992年の統計によると、上海市は14区と6県からなり、全市の人口は約1,300万人、世帯数は約430万戸であり、この10年間に人口は10%以上の、世帯数は40%以上の増加を示している²⁾。

杭州市と紹興市の属する浙江 Zhejiang 省は、上海市の南に位置する。全省の面積(約10万km²)のうち、約70%が山地と丘陵で占められている。『中国省別経済』によると、同省は9直轄市、2地区行政公署、15県級市、52県、20市直轄区からなり、全省の人口は約4,200万人であり、この10年間に人口は約7%増加している³⁾。

II 華東地域の都市景観

1. 都市景観

上海市の中心地は、租界時代に発達した南京路 Nanjing-lu や外灘 Waitan 付近であるが、近年は黄浦江 Huangpujiang をはさんで外灘の対岸にあたる浦東 Pudong 新区で再開発が進み、新たな都心地域が形成されつつある(第1図)。

上海市中心部の建築物の高層化・近代化は、対外経済開放政策後から急速に進んだ。近代化した高層建築物の構造をみると、建築物の骨組みは鉄骨や鉄筋コンクリートであるが、壁はレンガでつくられ、その上にタイルなどで装飾されている。建築は、内装・外装とも上の階からはじめられるのが一般的なスタイルである(写真1)。

上海市の外灘付近では租界時代に建築された西洋式の高層建築物が多くみられる(写真2)。それらは、イギリスの古典式・ルネサンス式・バロック式・ゴシック式・新ギリシャ式などの西洋式の建築様式や、西洋式と中国式の建築様式を組み合わせた折衷式の建築様式をなしている⁴⁾。これらの建築物はかつて各国の領事館などに利用されていたが、現在では主として市政府や中国銀行、ホテルなどに利用されて

[キーワード] 1 華東地域 2 都市景観 3 自由市場 4 農村景観 5 龍井茶

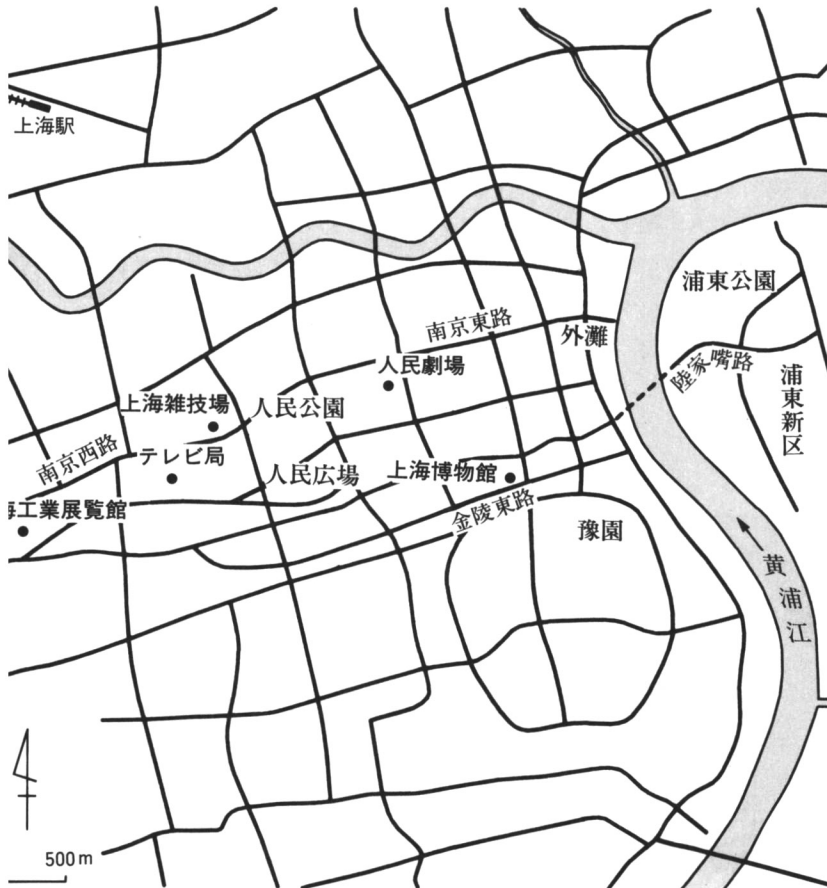
[keywords] 1 Huadong region 2 townscape 3 free market 4 rural landscape 5 Longjing tea

* 立正大・研 ** 立正大・院

いる。外灘周辺にはホテルや企業などの近代的な高層建築物もみられ、それらの高層建築物の上部には日本企業の看板が多くみられる。それに対して、政治的なスローガンの看板はほとんどみられない。

上海市の南京路では、外灘と同じように租界時代につくられた西洋式の高層建築物がみられるが、その一方で近代的な高層建築物への建て替えも進んでいる。これらの建築物の壁面には、彩色豊かな看板や広告が目立ち、日本企業の製品のものも多くみられる。金陵東路 Jinling-donglu に面した建築物には、中国南東部から台湾、東南アジアなどの諸都市に分布している停仔脚（騎樓 qilou）がみられる（写真3）。また、主要な通りに面した建築物をみると、

低層階が商店で中・高層階が住宅といった形態が多くみられ、職住近接の都市であることをうかがわせる。一方、裏通りには里弄 liliong 住宅といわれる上海独特の都市型の高密度集合住宅⁵⁾が密集している（写真4）。伝統的な里弄住宅は19世紀中頃から上海でみられたが、租界時代になると西洋の建築様式の影響を受け、西洋式の住宅を模倣した様々な里弄住宅が⁶⁾つくられるようになった⁶⁾。なお、上海市の一人あたりの居住面積は1949年の解放直後には3.9m²にすぎなかったが、1983年には4.9m²、1989年には6.4m²となり、これは拡大傾向にあるもののいぜんとして狭い⁷⁾。現在でも一人あたりの居住面積は4m²以下の世帯が⁸⁾24万世帯もあり⁸⁾、上海市中心部



第1図 上海市概観図

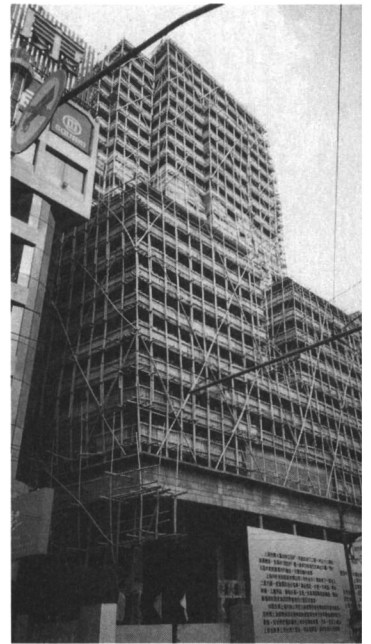


写真1 上海中心部の建設中の高層建築物（中牧 崇撮影）
足場は日本とは異なり、竹で組まれたものが多い。



写真2 外灘付近の西洋式の高層建築物 (田中智司撮影)
さまざまな様式の建築物が林立している。



写真3 金陵東路の停仔脚(騎樓) (田中智司撮影)
上海市では金陵東路沿いにのみ停仔脚がみられる。

の住宅事情は悪い。郊外の上海虹橋空港付近では、花園(ガーデンシティ)と呼ばれる庭付きの分譲住宅地が造成され、一戸建て住宅やアパート、マンションなどが建ち並び、日本のニュータウンのような景観がみられる(写真5)。

市中心部の南に位置する豫園 Yuyuan では、中国古来の伝統的な建築様式がみられる。これらの様式は中国古来の宗教や芸術文化、思想などをあらわし⁹⁾、上海名所の一つとなっている。豫園周辺は租界時代には、中国人居住区であった。現在その周辺は豫園商場と呼ばれる商店街となっているが、租界時代の伝統的な建築物も残っている。

上海市の浦東新区では現在、金融・貿易・経済・

商業・工業の拠点としての再開発が進められている。浦東新区の中心地は、黄浦江に面した陸家嘴 Lujiazui 地区であり、金融・貿易・商業を主体とした開発が進んでいる。ここでは中国人民銀行や招商銀行などの近代的な高層建築物が林立し、工事中の高層建築物もいたる所でみられる。日本の企業と中国の企業の共同出資による巨大なショッピングセンターも建築中であり、これが完成すると延床面積約10万 m^2 の東洋一の規模となる。また、96階建て、高さ450m、延床面積30万 m^2 という日本企業による超高層ビルも1996年には着工予定という計画もある。上海市の外灘の対岸にあたる場所には、東洋一の東方明珠電視塔(上海テレビ塔、高さ460m)が建造され、



写真4 遠洋ホテルからの眺望 (田中智司撮影)
低層の里弄住宅の他に近代的な高層建築物がみられる。



写真5 上海市郊外のニュータウン (田中智司撮影)
日本の分譲住宅よりも画一化されているようである。



写真6 杭州市の環北小商品市場（瀬戸嶋幸一撮影）
正面の部分が棚頂で上屋が取り付けられている。



写真7 紹興市の大達市場（瀬戸嶋幸一撮影）
2階以上の部分が住居となっている。

これは上海のシンボルの一つとなっている。

2. 自由市場

1949年の解放前の中国では多数の自由市場が存在していたが、解放後の社会主義化の進展にともない、その多くは閉鎖に追い込まれた。しかし、人民公社の解体や生産請負責任制の導入、郷鎮企業の発展などにより、自由市場はふたたび増加傾向にある。

自由市場については、『全国主要集市名冊』と『中国集市大観』に詳述されている¹⁰⁾¹¹⁾。それによると、自由市場は総合市場 zonghe shichang・專業 zhuanye 市場・批発 pifa 市場・專業批発 zhuanye-pifa 市場に分類されるが¹²⁾、全国的には総合市場が大多数を占め、專業市場がそれに次いでいる。浙江省では総合市場の割合は低く、專業市場と批発市場の割合が高く、上海市ではその傾向がとくに顕著である。自由市場の形態は露天式 loutianshi・棚頂式 pengdingshi・商場式 shangchangshi に分類され¹³⁾、一般的に農村では露天式が多いのに対し、都市では棚頂式が多い。しかし、浙江省と上海市では、全国平均よりも露天式の割合が高い。自由市場での取扱商品は農副産品が多い。

露天式および棚頂式の事例として、上海市大沽路 Dagulu の自由市場をみよう。この市場は棚頂と露

店が混在した常設市場であり、公設の大沽菜場 Dagucaichang に接している。取扱商品は、野菜・肉を中心として魚・果物・豆腐類であるが、それに加えて惣菜などを扱う棚頂や露店も随所にみられる。

商場式の事例として、杭州市の龍翔橋 Longxiang-qiao 農副産品市場と環北 Huanbei 小商品市場、紹興市の大達 Dada 市場をみよう。龍省橋農副産品市場は杭州市の中心部に位置し、2階建ての建築物からなっている。1階正面の入口付近には野菜、その奥の部分には魚・肉、2階部分では乾物・干物類などが扱われている。環北小商品市場（写真6）は武林 Wuling 広場に隣接した批発市場である。この市場は商場と棚頂が混合した形態からなっている。商場は写真左側の建築物の1階部分にあり、棚頂は写真正面である。棚頂式は商場式に隣接して拡張されたものと考えられる。取扱商品は衣料が中心で、日用雑貨も扱われている。大達市場（写真7）は紹興市の中心部の東に位置し、この周辺では住宅団地の建設や道路の拡幅などの再開発がなされている。この市場は6階建ての住宅団地の1階部分にあり、野菜を中心に肉・魚・卵のほか、靴なども扱われている。市場内には、店舗を構えたものや、地面にシートを敷いただけという出店形態もみられる。

III 華東地域の農村景観

1. 集落景観

ここでは、華東地域の伝統的な集落景観を残している紹興市の牌軒楼 Paixuanlou 集落と、近代的な集落景観をみせつつある杭州市の龍井 Longjing 集落についてみよう¹⁴⁾。

牌軒楼集落は紹興市の中心部から南東約4km、『禹陵 Juling』の門前に位置する。同集落は主要道路には面していないが、集落に沿ってクリークがみられる。集落内には、2～3m幅の道路が通り、クリークはほぼ集落に平行している。クリークには「河橋 keqiao」¹⁵⁾が整備され、現在でも物資の搬出入に利用されている¹⁶⁾。住居形態をみると、わずかながら近代的な2、3階建ての三合院型もみられるが、大部分は平屋建ての横長方形型である。集落はそれらが密集して塊村形態を呈している(写真8)。伝統的な住居の壁は、レンガを積み重ねたものに漆喰がほどこされている。屋根は瓦葺きであるが、整然と葺かれていない(写真9)。また、集落内のいたるところで、レンガ・石材などの不燃性の建築廃材が投棄されたままになっている。

龍井集落は杭州市の中心部から南西約10kmの丘陵地帯に位置し、ここは「龍井茶 Longjing-tea」のと呼ばれる高級茶の産地として知られる。同集落は谷底の狭小な平坦部に立地し、谷底の集落の中心部では6～7m幅の舗装道路が通じている。集落内住居のほとんどは近代的な2、3階建ての三合院型に建て替えられており、伝統的な木造住宅はごくわずかしかみられない(写真10)。また、住居は道路に沿った平坦部に建ち並び、いわゆる路村形態を呈し、集落背後の斜面は茶畑となっている。龍井集落の伝統的な住居は木造2階建てとなっており、華東地域において広くみられる煉瓦造りは少ない。近代的な住居は3階建てが多くなっている。建築物の基本的



写真8 牌軒楼集落の横長方形住居 (中牧 崇撮影)

なスタイルは三合院型であるが、それぞれベランダや壁面に特徴がみられる¹⁷⁾。このうち、一軒の住居構造をみると、1階が店舗とキッチン・トイレ、2階が寝室と居間、3階の一部がベランダとなっている。

2. 茶生産農家の事例

中国における茶の栽培は、気温・降水量・土壌などの諸条件により、1949年の解放前はおよそ北緯18～33°、東経100～122°の丘陵地帯に限られていたが、解放後は技術の進歩により北緯35°、東経99°付近まで拡大している¹⁸⁾。なお、茶の主産地は浙江・湖南・四川・福建・雲南の各省で、1992年ではこれら5省による茶の生産量は全国の茶の総生産量の約76%を占めている。

中国の茶の生産量は、1949年に4.1万tであったものが、1980年には30.4万t、1993年には60.0万tとなっており、1980年代に入ってから、その増加が著しい。茶の生産量の増加の背景には、栽培地域の拡大のみならず、「包産到戸」(1戸単位の生産請負責任制)をはじめとする「連産計酬責任制」(生産量と結び付けて報酬を計算する責任制)の定着・発展にともなう農家の生産意欲の向上も無視できない¹⁹⁾。

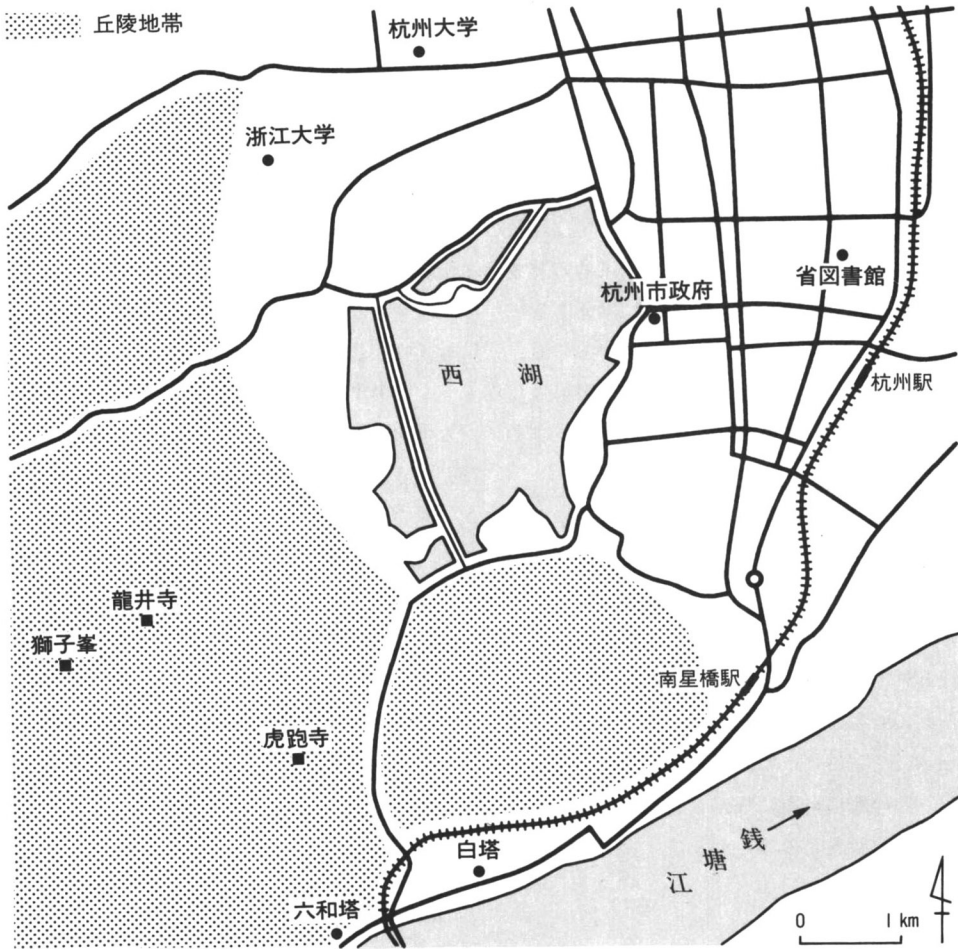
次に龍井集落の茶生産農家の事例をみよう。龍井



写真9 牌軒樓集落の伝統的な瓦葺きの形態(田中智司撮影)
瓦の葺き方は日本のように整然としていない。



写真10 龍井集落の近代的住居(亀井啓一郎撮影)
2~3階建ての近代的住居に改築が進む、手前は茶畑である。



第2図 杭州市概観図

茶²⁰⁾は杭州市西湖の西側の丘陵地帯、主に獅子峯 Shizifeng・龍井寺 Longjingsi・虎跑寺 Hupaosi の周辺において栽培される(第2図)。聞き取りを行った龍騰茶葉店(農家直営)の主な労働力は主人とその妻であり、家族労働によって茶の栽培が行われている。国から貸与されている茶畑の面積は約30aで、畑は集落裏山の斜面にある。茶畑には3種類のランクがあり、高いランクほど良質の茶が栽培できる。貸与される土地は、労働力に応じて各農家ごとに平等に各ランクの畑が割り当てられる。

茶摘みの時期には、多くの農家で臨時の茶摘み労働者を雇っている。龍騰茶葉店では4、5月に10人、6～10月に1人を雇っており、雇用者の多くは浙江省の山間部の村に住む18～25歳の女性である。その理由は、彼女らの手先がやわらかく器用であるため、茶葉を傷めないことによる。労働時間は繁忙期の場合、朝5時から日暮れまでである。茶摘みはすべて手作業で行われ、あらかじめ収穫量は決めず、良質の新芽だけを厳選して収穫する。臨時雇用者の賃金は、毎年増額傾向にあり、1994年は1日20元となっている。ただし、茶摘み作業は習熟を要するので、労働者の技術に応じて賃金格差が生じる。労働者には食事や作業服などが支給され、茶摘みが終了すると賞与が支給される。

製茶の初期段階にある揉捻(茶揉み)作業においては、龍井茶では一般に釜入り法²¹⁾を用いている。「包産到戸」以前には、村内の共同作業場において茶の揉捻作業を行っていたが、現在ではこの作業は各農家で行われている。龍騰茶葉店の高級茶の生産量は、例年は4kg程度であるが、1994年は天候が不順で2.5kgにとどまった。高級茶のうち、400gを国に納めるが、その他は自由に販売できる。そのため龍井村周辺の茶生産農家のほとんどは、販売も行っている。

IV おわりに

本稿では、中国華東地域における都市と農村の景観について考察してきた。これらをまとめると以下のようなだろう。

上海市を事例とする都市景観をみると、豫園周辺では伝統的な建築物がみられ、外灘や南京路では西洋式の高層建築物がみられる。裏通りでは東洋と西洋の建築様式を混合させた里弄住宅がみられ、浦東新区では世界中の大都市でみられるような近代的な高層建築物がみられる。

自由市場では露店式・棚頂式・商場式のほか、規模の拡大にともなう混合形態や複合的な空間利用がみられる。これらは、社会主義市場経済下における自由市場の発達や近代化の一端を示唆するものと考えられる。

杭州市と紹興市を事例とする農村景観をみると、伝統的な住居形態を残した集落がある一方で、茶生産農家でみられるように、所得の増加にともなう近代的な住居形態を呈する農家もみられる。

今回の調査は短い期間ではあったが、発展を続ける中国の現状と、それにともなう景観の変容の一端をみる事ができた。近い将来、再び調査を行いたいものである。

本研究は1994年度立正大学大学院人文地理学・地誌学合同野外研究で得られた調査結果をまとめたものである。本稿をまとめるにあたり立正大学地理学教室の正井泰夫先生、内山幸久先生にご指導いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

本稿は、巡検参加者によって中国野外研究グループを組成し、そこで議論を進めながらまとめていったものである。なお、執筆は主として第二章第1節を亀井・中牧・劉、第2節を瀬戸嶋・金本・周、第三章第1節を田中・横山、第2節を村田が担当した。

(1995年4月28日 受付)

(1995年5月20日 受理)

注および参考文献

- 1) 正井泰夫・堂前亮平・山口雅功・内山幸久・松井秀郎・萩原八郎・李 慶忠 (1991)：『長江下流域の景観と地域変容—第2回立正大学訪中団報告—』地域研究, 31-2, 24~27.
- 2) ダイヤモンド社編 (1994)：『94 実践上海ビジネス』ダイヤモンド社, 154 p.
- 3) 日本国際貿易促進協会編 (1991)：『中国省別経済』日本国際貿易促進協会, 145 p.
- 4) 張 在元編著 (1994)：『中国 都市と建築の歴史 都市の史記』鹿島出版会, 280 p.
- 5) 前掲 4)
- 6) 前掲 4)
- 7) 杉野明夫 (1988)：『中国の大都市建設—上海を中心として—』都市問題研究, 40-2, 112~129.
辻 康吾・中野謙二・武吉次朗・宇野和夫 (1992)：『上海市—世界に開く商工業都市』弘文堂, 210 p.
- 8) 『中国通信』1994年4月27日付による。
- 9) 黄 長美 (1985)：『中国庭園と文人思想』明文書房, 244 p.
- 10) 石原によると、『全国主要集市名冊』に収録された自由市場は全市場の20%弱、『中国集市大観』に収録された自由市場は全市場の5%強であり、都市部に偏りをもっている。
- 11) 石原 潤 (1991)：『中国の自由市場について—蘇州地域の事例を中心に—』名古屋大学文学部研究論集, 110, 175~206.
石原 潤 (1994)：『中国集市大観』にみる中国の自由市場。名古屋大学文学部研究論集, 119, 183~214.
- 12) 石原は、市場の定義について言及していないが、総合市場とは農副産品・日用工業品など複数の商品を総合的に扱う小売市場、専門市場とは特定の商品のみを扱う小売市場、批発市場とは卸売中心の総合市場、専門批発市場とは卸売中心の専門市場を意味するものと考えられる。
- 13) 石原によると、露天式とは街路や広場で開かれる建築物のない市場、棚頂式とは屋根つきの陳列台をもつ市場、商場式とは建築物をもつ市場を意味するとしている。
- 14) なお、伝統的な集落における住宅形態については劉 (1976)、李 (1991) において考察されている。
李 慶忠 (1991)：『江南地方における住居の形態と景観』地域研究, 31-2, 43~49. 劉 敦楨 (1976)：『中国の住宅』鹿島出版会, 213 p.
- 15) 「河橋」とは、陸上からクリークに降りるための階段状の護岸設備を指し、日本でいうところの橋は「陸橋」という。
陣内秀信 (1993)：『中国の水郷都市 蘇州と周辺の水の文化』鹿島出版会, 285 p.
- 16) その一方で紹興市の中心部では、都市化の進展、観光産業の発展とともにクリークの役割が変化してきている。たとえば、ホテルの前のクリークに観光船用の船着き場や歴史的なデザインを施した橋などが整備されている。
- 17) たとえば、ベランダの形状は画一でなく、各住居によってそのスタイルは異なる。また側壁もタイル張りにするなど個性的な住居が多くみられる。
- 18) 山下龍三訳 (1981)：『現代中国地理—その自然と人間—』帝国書院, 534 p. 河野通博・青木千枝子共訳 (1988)：『現代中国地誌』古今書院, 272 p.
- 19) 中国研究所編 (1982)：『新中国年鑑 1982年版』大修館書店, 136~141.
中国研究所編 (1984)：『新中国年鑑 1984年版』大修館書店, 68~71.
- 20) 龍井茶は色が緑色であること、香気が強くてふくよかなこと、味がさわやかであること、形が雀の舌状であることなどから、中国四大銘茶の一つに数えられている。山西 貢 (1992)：『お茶の科学』裳華房, 233 p.
- 21) 釜炒り法とは、230℃以上に熱した鉄釜が回転して、8分あまり炒る方法である。
山西 貢 (1992)：『お茶の科学』裳華房, 233 p.